



一次予防が大切と語る高市さん

いなのか」と絶望しかけたところ、応援してくれる先生が出てきて、次第に仲間が増えていきました。そこからは団体を作ったり、様々な先生と連携したりと活動の幅が広がっていきました。また、いざ自己血糖測定を始めても、当時は自分たちですら不慣れでしたし、患者さんがうまく使いこなせないことも多々あり、メーカーと一緒に、より使いやすくするためにはどうしたらいいか試行錯誤しながらやっていたね。

——患者さんとのコミュニケーションも大切になってきますね。

いろいろな人がいますから、コーチングが大切になってくると思います。当然、怒らせてしまったり、もう二度と薬局に来なくなったりは意味がないわけです。薬剤師としては、継続的な血糖値の推移を聞きたいわけで、それぞれの人に合わせて良好な関係を築けるよう、コミュニケーションを図ることが大切だと思います。「指導」と思われても、上から目線と感じてしまうかもしれないので、「一緒に頑張っていきましょう」と利用者さんに投げかけています。

実はこれ、処方箋についても同じこ

とが言えるんですよね。私の薬局は完全に100%面対で、目の前に病院があるわけではありません。遠くの病院にかかって、わざわざうちの薬局を選んで来てくれる患者さんがたくさんいます。そういう人たちに少しでも「この薬局にもう来たくない」と思われてはいけなわけです。

他のどんな職業でも「集客」はしています。様々なサービスや態度で、リピーターを獲得するように努力しているはずですよ。薬局の薬剤師にも、患者さんにまた来てもらうためにはどうしたらいいの、常に考え続けることは必要だと思いますね。

——これから薬局も集客の意識が広がって

くと思いますが、どんな手法で進めていくべきなのでしょう。

それは「使えるものは何でも」です。人間関係から始まって、薬局の機能やサービスを何でも使うし、何でもします。患者さんが望むこと次第と言えます。これからはセルフメディケーションとして、OTCを販売していくという流れがありますが、順番に気をつけなければいけないと思います。

例えば、かぜ薬の処方箋を持ってきた患者さんにマスクを販売するだけでは、薬局としての機能を果たしているとは言えませんよね。具合が悪くなったときにまず薬局を訪れてOTCで対応する、あるいは重症な場合は病院を紹介するという役割が求められると思います。私はこれを「かかる前薬局」と呼んでいます。

いわゆる門前薬局であっても、いつもその患者さんに薬を調剤しているわけですから、医師にかかる前に薬局に寄って、「今日は何を聞いたらいいですか」と薬剤師に聞いてくれればアドバイスできますよね。門前薬局であっても、「かかる前薬局」の機能は果たせると思います。薬物療法のプロであるから、薬が処方されなければアドバイスをしないという姿勢ではなく、あ

くまでプライマリケアとして一次予防や一歩前の段階から治療に関わるこそが、今の薬剤師に求められていることではないでしょうか。

——院外処方箋が普及する前は、そのような機能は果たしていたのではないのでしょうか。

かつて地域住民の相談を聞いてOTCを販売していたのは確かだと思います。しかし、その部分のエビデンスが希薄で、経験則に基づくことが多かったと思います。だからこそOTCに測定を持ち込みたかったんですよ。客観的なチェックがそこには必要だと思います。

——このような取り組みは地域の住民にも理解が得られているのですか。

十分とは言えません。検体測定に関してはネットで調べてわざわざ来てくれる人はいますけど、近所でたくさんの方が来てくれる段階には達していません。検体測定を実施している薬局もまだ少ないです。札幌が発祥の地ですから、もっと増えてほしいという気持ちはあります。

——検体測定が広がっていかない理由はどこにあるとお考えですか。

薬局に来てもらうための手段とし  
(14ページへ続く)

## OTCに測定を持ち込む



薬局薬剤師のあるべき姿に熱心に耳を傾ける

## 一歩先を行く薬剤師になるために！



一般社団法人  
薬学ゼミナール生涯学習センター

薬学ゼミナール生涯学習センターは、医療の質の向上をめざし、地域で活躍できる薬剤師を応援しています。

|                    |                                                                             |           |                                                                         |
|--------------------|-----------------------------------------------------------------------------|-----------|-------------------------------------------------------------------------|
| 2016年度<br>3月12日(日) | 輸液から学ぶ全身管理<br>医療法人社団 弘仁勝和会 勝和会病院<br>薬剤部長 出口弘直 先生                            | 7月23日(日)  | 糖尿病のトータルマネジメント<br>筑波大学 医学医療系 地域医療教育学 教授<br>筑波大学附属病院 総合診療科 前野哲博先生 他      |
| 2017年度<br>4月23日(日) | てんかん治療トータルマネジメント<br>北里大学 小児科学 准教授<br>北里大学東病院 小児在宅支援センター センター長 岩崎 俊之先生       | 8月6日(日)   | 実践！参加型在宅医療講座<br>JHOP(全国薬剤師・在宅療養支援連絡会) 副会長<br>医療法人つくし会 南国病院 薬剤部長 川添 哲嗣先生 |
| 5月14日(日)           | リウマチ治療トータルマネジメント<br>東京都立駒込病院 膠原病科医長<br>瀬戸口 京吾 先生                            | 9月10日(日)  | わかりやすい「症候診断」<br>筑波大学 医学医療系 地域医療教育学 教授<br>筑波大学附属病院 総合診療科 前野哲博先生          |
| 6月18日(日)           | かかりつけ薬局で必要ながん予防の基礎知識<br>筑波大学 医学群 医学教育企画評価室<br>筑波大学附属病院 光学医療診療部 准教授 鈴木 英雄 先生 | 10月22日(日) | フィジカルアセスメント<br>筑波大学 医学医療系 地域医療教育学 教授<br>筑波大学附属病院 総合診療科 前野哲博先生           |

info@yakuzemi-shougai.jp

http://www.yakuzemi-shougai.jp/